

あったかいが いいね・・・

シャローム横浜通信 4月号



2019年(平成31年) 4月号 (第 224号)

「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい」

相次ぐ児童虐待の報道に多くの人は耳を疑い、心を痛め、それが起きたことが自分のせいであるかのように傷ついています。「どうして止めることができなかったのか」と。遠く離れた「どこか」で起こってしまった問題も、マスコミで取り上げられればそれが自分のすぐ傍で起きたことのように感じます。でも、この「自分のことのように感じる」ことこそが問題の本質に迫る手段のひとつではないでしょうか。

最近『子どもの権利』という言葉をよく耳にします。厚生労働省は11月を「児童虐待防止推進月間」と定めて個人や地域社会に対して児童虐待防止のための取り組みを行っておりませんが、それでも後を絶たない児童虐待の現実を毎日のようにニュースとして流れてきます。

シャローム横浜では高齢者へのサービスを提供していますが、その根底を流れる思想は「人権」です。そしてこの人権とは「すべての人が生まれながらに持っている誰からも侵されることのない権利」のことです。そこには個人の尊厳が保証されます。人が他者から愛されることによつて『人として生まれたことに感謝し、今生きていることを喜び、未来

への希望を持てる人生』は、すべての人が求めてよい人生であつて、そうなることはその人の権利として与えられているものです。

シャローム横浜では毎朝8時45分から朝礼が持たれます。そこで讚美歌を歌いお話を聞いて、最後にチャプレン(施設付牧師)が祝福の祈りをささげます。この朝礼の時間に私たちの施設にとつて大切なことが確認されます。「いのちを敬い、いのちを愛しいのちに仕える」という法人理念です。いのちとは一体何か、それを敬い愛し、それに仕えるとはいったいどういうことなのか。先日の朝礼でも参加した職員全員で考えました。聖書の中には「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい」という言葉があります。シャローム横浜も毎日接するご利用者の思いを自分のこととして感じるケアを目指しています。

平成30年度も皆さまのご理解とご協力を得て事業を進めてくることができました。心より感謝申し上げます。3月は施設の事業の締めくくりの月になります。この一年、シャローム横浜に関わつて下さつたすべての皆さまの上に、天来の祝福が豊かに注がれますように心からお祈り致します。

村本英邦

今月のギャラリー「女子美術大学工芸専攻作品展」

はじめまして！私たちは、女子美術大学工芸専攻の3年生です。

工芸専攻では陶芸、ガラス、染、織、刺繍の分野を学んでいます。その中でも私たちは染、織、刺繍に特化したテキスタイルコース所属の3年生からなるグループです。

全て自身でデザインを起こし、織物は糸から染めるなどして手仕事で日々作品を制作しています。

私たちの作品を少しでも楽しんでいただけたら嬉しいです。 遠藤 碧



あったかいが いいね

第224号

平成31年3月15日発行
(毎月1回15日発行)

責任者:施設長 村本英邦
〒241-0802
横浜市旭区上川井町1988
アドベンチスト福祉会
シャローム横浜

編集 椎橋・遠藤(裕)・坂本
☎ 045-922-7333

お知らせ 機能訓練指導員より

入所様が充実した自立生活を送っていただけることを目指して、日常生活のなかでリハビリテーションに取り組んでいます。機能訓練指導員だけではなくケアマネジャー・看護師・ケアワーカーなどがプログラムを共有し、状態に合わせた機能訓練（歩行訓練・筋力トレーニング・マッサージなど）を実施しています。皆様が笑顔で過ごしていただけるように、

ご家族様からもご要望などをお伺いしております。小さなことでもぜひお聞かせください。

機能訓練指導員 山中 真



デイサービス 元気体操の紹介

デイサービスでは毎日、お昼前に元気体操を 30 分くらい行っています。健康美あふれる山村先生のご指導で前半はストレッチ、後半は口腔体操です。毎回行うことで皆様の身体の柔軟性や筋力、バランス力が付いてくると共に、集中力も強化されています。口腔体操は嚥下能力を高めます。高齢者の事故死の原因の1位、2位である転倒と誤嚥を予防することは

大きな意義があります。音楽に合わせて身体を動かして楽しく健康づくりを行っています。

デイサービス課長 椎橋 葉子



「見よ、兄弟が和合して共におるのは・・・」

第132回 チャプレン上前至

8年前の3月11日、日本人が今まで余り経験したことのない大地震、津波、そして福島での第一原発による原発事故を経験した。その時、実は東京も影響を受け、東京における大避難も必要か？という日本史上、大惨事がおきる可能性さえ囁かれていたものである。私の娘は丁度、霞ヶ関近くのビルにいた時であり、首相官邸からヘリコプターが飛び立っていくのを見たという。当時の菅首相がいてもたってもいられずに原発情報を求めて福島に飛び立っていったということをおとのニュースで知ったことである。

結果、その未曾有の大災害により、約2万2千人が犠牲となり、

今も約3千人がプレハブの仮設住宅に住み、約5万人超が今も尚、元に戻れず避難先の住所で生活しているという。今、最も大きな問題は、かつてのコミュニティが元に戻らず、人々の顔見知りの繋がりがなくなってしまったことであるという。人間には物も必要であろう。食べ物もなくてはならないものである。しかし、それ以上に大切なものは、やはり人として、人と人同士のつながりであり、心の交流ができていくことである。それが欠如している結果として今、起こっている問題が「孤独死」であるという。2週間も経って発見された高齢者も出てきているという。神戸・淡路大震災のときに起こった問題が、今、東北大

震災でも起こっているという。私達、人間にとって一番大切なこと、それは結局は「人と人との繋がり」であるということをお教えているのである。

「見よ、兄弟が和合して共におるのは、いかに美しく楽しいことであろう。」詩篇 133 編 1 節

